

令和5年度

ミドルリーダー研修の手引

(中堅教諭等資質向上研修)

栄養教諭・学校栄養職員

徳島県教育委員会

目 次

I	ミドルリーダー研修（中堅教諭等資質向上研修）の概要	1
1	研修の目的	
2	受講対象者	
3	研修の内容等	
4	その他	
II	校外研修	2
1	校外研修の概要と日数	
2	研修講座の申込みと受講について	
III	校内研修	3
1	校内研修の概要と日数	
2	校外研修との関連	
3	研修の振り返り	
IV	模擬授業研修	5
1	模擬授業研修とは	
2	模擬授業研修実施教科等について	
3	模擬授業研修の事前準備	
4	模擬授業研修の実施	
5	模擬授業研修終了後	
V	研修の流れ	10
VI	とくしま教員育成指標	11
VII	ミドルリーダー研修で使用する様式の記入例について	12
	【栄 様式(A)】とくしま教員育成指標に基づく自己評価票	
	【栄 様式(B)】とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定	
	【栄 様式(C)】ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書	
	【栄 様式(D)】ミドルリーダー研修事前評価票	
	ミドルリーダー研修事前評価票・研修計画書送付状	
	【栄 様式(E)】ミドルリーダー研修校外研修実施報告書	
	【栄 様式(F)】ミドルリーダー研修校内研修実施報告書	
	【栄 様式(G)】ミドルリーダー研修事後評価票	
	ミドルリーダー研修終了に係る報告書類送付状	
	【栄 様式(H)】ミドルリーダー研修選択研修レポート	
	【栄 様式(I)】ミドルリーダー研修模擬授業研修について（通知）	
	【栄 様式(J)】欠席届	
	【栄 様式(K)】ミドルリーダー研修・受講延期願	

※ミドルリーダー研修に係る様式は、

総合教育センターのWebサイト 教職員研修講座「提出書類のダウンロード」→「教職員研修の様式」→「ミドルリーダー研修様式」 からダウンロードして使用することができます。

I ミドルリーダー研修（中堅教諭等資質向上研修）の概要

1 研修の目的

ミドルリーダー研修（中堅教諭等資質向上研修）〔栄養教諭・学校栄養職員〕（以下「ミドルリーダー研修」とする）は、教育公務員特例法第24条の規定に準じ、個々の能力、適性等に応じて、教育活動その他の学校運営の中核的な役割を果たすことが期待される中堅栄養教諭・学校栄養職員としての職務を遂行する上で必要とされる資質・能力の向上を図るために実施する。

2 受講対象者

原則として、採用後10年目の小学校・中学校・中等教育学校・特別支援学校の栄養教諭・学校栄養職員

3 研修の内容等

(1) 内容

- ① 徳島県教育委員会は、ミドルリーダー研修受講者について、「とくしま教員育成指標」を踏まえて体系的にミドルリーダー研修を実施する。
- ② ミドルリーダー研修の研修の柱は次のとおりである。
 - ア 「素養」の育成を図る研修
 - イ 「専門的職務実践力・学習指導」に関する研修
 - ウ 「担任力・生徒指導」に関する研修
 - エ 「特別な配慮・支援」に関する研修
 - オ 「ICTの利活用」に関する研修

(2) 研修の日数

研修の日数は、次のとおりである。

校外研修	校内研修
4. 5日間	5日間

(3) 実施上の留意事項

- ① 校長は、受講者の校務分掌等について、軽減を図るように努めるものとする。
- ② 校長は、本研修が実効性のあるものとなるよう、計画的な学校運営に努めなければならない。
- ③ ミドルリーダー研修は、原則として当該年度中に終了するものとする。

4 その他

(1) 受講者の決定等について

- ① 事情により、当該栄養教諭等の研修受講年度を次年度以降とすることについては、受講予定者本人、校長及び市町村教育委員会教育長の意見を参考に徳島県教育委員会が判断する。
- ② 国立学校等の場合は、校長から直接徳島県教育委員会に所定の手続きをするものとする。

(2) 校外研修における欠席について

- ① やむを得ず欠席（遅刻・早退）する場合は、あらかじめ管理職員（緊急の場合は本人）が、ミドルリーダー研修担当に連絡する。教職員研修課長により欠席が承諾された場合、管理職員は、総合教育センターWebサイト又は本冊子に掲載しているミドルリーダー研修の【栄 様式(J)】「欠席届」を、速やかにメールに添付して送付する。
- ② 欠席日数が多い場合には、徳島県教育委員会内に置く判定委員会の審議を経て、再受講を課すことがある。

Ⅱ 校外研修

1 校外研修の概要と日数

4. 5日間の校外研修は、次の(1)～(4)からなる。

校外研修の日程については、別紙の「校外研修日程一覧表」に示す。

(1) 共通研修（1. 5日間）

全ての受講者を対象に、次の日程・内容で行う。

・共通研修(1) 4月 6日(木) 会場：総合教育センター(1日)

(研修内容) ○開講式，教育長訓話

○講義「ミドルリーダーに必要な資質・能力」

○講義「教職員の服務・規律」

○講義「徳島型メンター制度について」

○オリエンテーション

・共通研修(2) 12月28日(木) 会場：総合教育センター(午後0. 5日)

(研修内容) ○教育実践に関する共同研究会

○講義「カリキュラム・マネジメントについて」

○閉講式

12月28日(木)の共通研修(2)については、改めて研修案内の文書は発送しない。実施要項が、総合教育センターWebサイトに掲載されているので、受講者から管理職員に実施要項を提示し、承諾を得たうえで、出席する。なお、実施要項の内容が変更になる場合があるため、研修の実施日の数日前に、必ず最新の実施要項を確認する。

(2) 模擬授業研修（1日間）

教科等で設定された日(7月31日(月)～8月4日(金) ※詳細は別紙参照)から1日を選択し、受講者の所属校(会場校担当の所属校)で模擬授業を実施する。研修にはフレッシュ研修Ⅱ受講者も参加し、授業に関する研究協議を行う。 [p 5 「Ⅳ 模擬授業研修」参照]

(3) 栄養教諭・学校栄養職員の職務に関する研修（1日間）

徳島県教育委員会が主催する栄養教諭・学校栄養職員の職務に関する研修講座を受講する。

月/日(曜)	講座名	研修内容
7/24(月)	食に関する指導研修／ 学校給食管理研修	食に関する指導の工夫・改善について考える。学校給食管理における市町村の課題を踏まえた協議を行う。

(4) 選択研修（1日間）

別紙「校外研修日程一覧表」，「大学・研究機関等研修予定表」，「独自研修予定表」等により研修日を確認し、各自で選択して受講する。0. 5日の研修を、2つ受講、もしくは、0. 5日の研修1つとそれに関するレポート【栄養様式(H)】の提出で、1日とする。

その際、総合教育センターのWebサイト上の「教職員研修講座」の「講座要項」→「ミドルリーダー研修(栄養教諭・学校栄養職員)」→「各研修講座の実施要項」[※5月8日(月)までにアップ予定]で、研修講座の内容を必ず確認する。

2 研修講座の申込みと受講について

- (1) 別紙「校外研修日程一覧表」等により研修日を確認し、【栄 様式(C)】「ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書」を作成する。
- (2) 校外研修は、各学校の研修講座申込みID、パスワードを用いて5月8日(月)～19日(金)の間に、総合教育センターのWebサイト上の「教職員研修講座」の「講座申込」内にある「ミドルリーダー研修（栄養教諭・学校栄養職員）」から申し込む。その際、選択研修だけでなく、共通研修、模擬授業研修、栄養教諭・学校栄養職員の職務に関する研修についても申込みをすること。
- (3) 申し込んだ講座の受講が可能かどうかは、6月5日(月)午前10時以降に総合教育センターのWebサイトから確認できる。
- (4) 【栄 様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」は、共通研修(1)で配付した用紙に受講が確定した講座名を各自記入する。
- (5) 【栄 様式(E)】「ミドルリーダー研修・校外研修実施報告書」は、各研修講座当日の受付時に研修講座担当者に提出し、終了時に受け取ること。なお、「個別申請を要する研修」等、担当者不在の講座については、受講後、【栄 様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」に所属校の校長のチェックを受けること。
- (6) 各講座の実施要項については送付しない。総合教育センターWebサイトで実施要項を必ず確認（特に、昼食、準備物、駐車場、受付場所等）して、研修に臨む。なお、実施要項の内容が変更になる場合があるため、実施日の数日前に、必ず最新の実施要項を確認すること。
- (7) やむを得ず欠席（遅刻・早退）する場合は、あらかじめ管理職員（緊急の場合は本人）が、ミドルリーダー研修担当に連絡する。教職員研修課長により欠席が承諾された場合、管理職員は、総合教育センターWebサイト又は本冊子に掲載しているミドルリーダー研修の【栄 様式(J)】「欠席届」を、速やかにメールに添付して送付する。なお、送付は、学校代表メールアドレスもしくは管理職員のメールアドレスから行うようにする。

【送付先】総合教育センター教職員研修課

メールアドレス：kyoushokuinkenshoo@g.tokushima-ec.ed.jp

Ⅲ 校内研修

1 校内研修の概要と日数

5日間の校内研修は、次の(1)～(3)からなる。

校内研修においては、3時間の研修で、1日間と数える。3時間を連続して設定しなくてもよい。

(1) とくしま教員育成指標に基づく自己評価の実施及び研修計画の立案（1日間）

- ① 受講者は、【栄 様式(A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」、【栄 様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」（【研究テーマ】まで）、【栄 様式(C)】「ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書」を作成して校長に提出し、校長の承認を受ける。

【管理職員による研修計画の承認と書類の作成】

- ① 校長は、受講者に期待することや本人の目標達成につながるかどうかを判断して、【栄 様式(C)】「ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書」を承認する。
- ② 受講者の提出した【栄 様式(A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」、【栄 様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」や、日頃の勤務状況等を勘案して、【栄 様式(D)】「ミドルリーダー研修・事前評価票」及び「ミドルリーダー研修事前評価票・研修計画書送付状」を作成する。
- ③ 【栄 様式(C), (D)】を各1部提出する。

【国立・県立学校】提出先：県教育委員会 教職員課
【市町村立学校】 提出先：市町村教育委員会

提出期限：令和5年5月25日（木）
提出期限：令和5年5月25日（木）

② 留意点

ア 受講者は、【栄 様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」の【自己分析に基づく本年度の目標】及び【学校・地域活性化の視点】に基づき、栄養教諭・学校栄養職員の職務に関することで、普段の取組の範囲内で実践できる研究のテーマを設定する。

イ 学校・地域の実情を踏まえ、ミドルリーダーとして求められる資質・能力（「とくしま教員育成指標」参照）を勘案し、テーマに沿った具体的取組を構想する。

ウ 栄養教諭・学校栄養職員としての普段の職務を通して、周囲に働きかける等実践を行う。研究の実践に関して、校長、副校長及び教頭等は、適宜、指導・助言を行う。

(2) 教科等の指導に関する研修（3日間）

- ① 3日間の構成は、教材研究及び学習指導案作成（2日間）＋研究授業及び研究協議（1日間）とする。
- ② 研究授業は「模擬授業研修」で扱った単元（題材）を必ず行うものとする。研究授業は、模擬授業研修終了後（原則として9月～12月）に実施し、研究授業終了後は指導案を修正して、総合教育センターのミドルリーダー研修担当にメールで提出する。 [p 5「IV 模擬授業研修」参照]
- ③ 校長、副校長及び教頭等は、教材研究及び学習指導案作成において、適宜、指導・助言を行うとともに、研究授業を参観・評価し、指導・助言を行う。
- ④ 学校訪問、各教科等研究会で行う研究授業を充てることは原則としてできない。ただし、管理職員等（管理職員に代わり、主幹教諭、指導教諭、学部長も可）がその全てを参観し、その後の授業研究会で指導助言を行えば研究授業と兼ねることができる。

(3) 「実践報告書」の作成（1日間）

1年間を通して取り組んだ内容について「実践報告書」（A4用紙1ページ以上）を作成する。報告書は全教職員で共有し、校長、副校長及び教頭等の指導・助言を受け、次年度の学校運営に生かすようにする。

また、プレゼンテーションを作成した場合は、報告書として提出することも可とする。その場合、スライドの総数は8枚以上とし、A4用紙1ページにスライドを4枚印刷して2ページ以上（両面印刷で1枚以上）で提出する。

「実践報告書」は、総合教育センターのミドルリーダー研修担当に紙媒体で提出する。

提出期間：令和6年2月1日（木）～2月22日（木）

2 校外研修との関連

- (1) 校内研修全般にわたり、校外研修で習得した知識や経験を基に、校長、副校長及び教頭等の指導・助言を得て、研修を行う。
- (2) 校外研修、校内研修ともに、『素養』の育成、「専門的職務実践力・学習指導」、「担任力・生徒指導」、「特別な配慮・支援」、「ICTの利活用」が研修の柱であることを踏まえて、研修を行う。

3 研修の振り返り

4月に作成した【栄 様式(A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」、【栄 様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」の【自己分析に基づく本年度の目標】に照らし合わせ、年度末に【本年度の振り返り】を行い、研修の成果と課題を記述する。

研修の成果を次年度からの教育実践にどう生かしていくか、本年度見えてきた課題を今後の教育実践においてどう解決していくかについて、次のキャリアステージに向けての取組を校長に提出し、校長の承認を受ける。

「実践報告書」、【栄 様式(H)】「ミドルリーダー研修選択研修レポート」(必要な場合)、【栄 様式(A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」、【栄 様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」は、校長の承認後、A4用紙に表裏両面印刷をして、総合教育センターのミドルリーダー研修担当に提出する。

提出期間：令和6年2月1日（木）～2月22日（木）

【管理職員による報告書の確認等と書類の提出】

- ① 校長は、【栄 様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」を確認、「実践報告書」、【様式(H)】「ミドルリーダー研修選択研修レポート」(必要な場合)、【栄 様式(A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」、【栄 様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」、【栄 様式(F)】「ミドルリーダー研修校内研修実施報告書」を承認する。
- ② 校長は、受講者の1年間の取組の様子や提出書類等を踏まえ、【栄 様式(G)】「ミドルリーダー研修事後評価票」及び「ミドルリーダー研修終了に係る報告書類送付状」を作成する。
- ③ 【栄 様式(E)、(F)、(G)】を各1部提出する。
【国立・県立学校】提出先：県教育委員会 教職員課 提出期限：令和6年2月22日（木）
【市町村立学校】提出先：市町村教育委員会 提出期限：令和6年2月22日（木）

IV 模擬授業研修

1 模擬授業研修とは

模擬授業研修は、ミドルリーダー研修受講者とフレッシュ研修Ⅱの受講者がともに行う研修である。授業力の向上を目指すとともに、ミドルリーダーとして若手教員育成の視点をもって授業実践、研究協議を行う。また、模擬授業研修実施に当たっての連絡調整、運営等を含めてマネジメント実践の場とする。

2 模擬授業研修実施教科等について

模擬授業研修は、教科等における「食に関する指導」について、1日間の研修を行う。模擬授業研修で作

成した指導案を基に、校内研修の「(2)教科等の指導に関する研修」で研究授業を行う（原則9月～12月に実施）。そのため、模擬授業研修で作成する指導案の単元（題材）は、所属校において実際に行う予定の単元（題材）の中から選ぶものとする。

3 模擬授業研修の事前準備

模擬授業研修の案内文書は、ミドルリーダー研修担当から班長に6月初旬ごろ【栄 様式(I)】で連絡するので、班員で連絡を取り合い、実施日、実施場所等について、必ず管理職員に報告した上で出席すること。

(1) 班編制と役割分担、報告

ミドルリーダー研修（栄養教諭・学校栄養職員）担当主事と相談の上、行事予定等を確認して、模擬授業研修日を決定する。また、班員数に応じて、役割分担を工夫する。

○主な役割と分担例

班 長：模擬授業研修についての通知【栄 様式(I)】「ミドルリーダー研修模擬授業研修について（通知）の班員への転送、講師（模擬授業研修の指導・助言を行う指導主事等）と班員との連絡調整、決定事項の伝達、研修当日の運営の計画と運営
マッチング担当：フレッシュ研修Ⅱ受講者の班長との連絡調整，研修当日の運営
会場校担当：研修当日の会場校を担当（学校長の承認を得て決定），使用機器等について班員との連絡調整，研修当日の機器準備及び会場設営
記録係：研究協議記録を整理，提出，研修当日の運営

班員の連絡先を確認して、共通研修（1）で配付する報告用紙を総合教育センターのミドルリーダー研修担当に提出する。控えは班長が管理する。

報告期限：4月6日（木）

(2) 模擬授業研修の実施場所及び日程調整、報告

模擬授業研修は、原則として受講者の所属校（会場校担当の所属校）で行う。会場校担当者は、所属長の使用許可を得て会場を決定する。班長は、班員・講師とそれぞれに連絡を取って、4月6日（木）の共通研修（1）で提示された模擬授業研修の候補日から、模擬授業研修の実施日を決定し、実施場所と合わせてミドルリーダー研修担当に報告をする。

※受講者の所属校での実施が困難な場合は、ミドルリーダー研修担当まで連絡をする。

報告期限：4月14日（金）

模擬授業研修についても他の研修と同様に、各自で総合教育センターのWebサイトで申し込み、【栄 様式(C)】「ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書」と【栄 様式(E)】「ミドルリーダー研修 校外研修実施報告書」に記入する。

申込期間：5月8日（月）～5月19日（金）

(3) フレッシュ研修Ⅱ受講者との連絡、報告

フレッシュ研修Ⅱ班長からマッチング担当に連絡があるので、フレッシュ研修Ⅱの班の人数や今後の連絡先を確認する。期限までに連絡がない場合は、ミドルリーダー研修担当に報告する。

確認期限：5月19日（金）

【フレッシュ研修Ⅱ実施日】

5月10日（水）中，養 5月11日（木）高，特 5月12日（金）小，栄

※フレッシュ研修Ⅱ班長からの連絡は、上記の日以降にある。複数班がマッチングしている場合は、マッチング担当はそれぞれの班長と連絡を取り合う。

(4) 模擬授業研修の確認事項 確認期限(目安)：模擬授業研修案内文書受け取り後～6月23日(金)

班長は、模擬授業研修の実施に関して、次の①・②について講師と打合せを行い、班員に連絡する。

① 学習指導案の様式

様式を講師に確認して、班員に伝える。

② 準備物

原則として、模擬授業研修に必要な教科書、指導書、教材・教具等は、全て各自で準備する。研修会場で借用する場合は、会場校担当及び講師と相談する。

(5) 模擬授業研修の使用機器の確認

模擬授業で利用できる機器（パソコン、タブレット（人数分）、プロジェクタ、実物投影機）等について会場校担当に確認する。個人のパソコン、タブレット、スマートフォン等を使用することはできるが、会場校でのネットワークへの接続の可否については、会場校担当と確認を行う。

(6) 模擬授業実施単元（題材）の報告とフレッシュ研修Ⅱ受講者の課題の受け取り

模擬授業研修では、事前にフレッシュ研修Ⅱ受講者に模擬授業の実施予定の単元（題材）を伝えて、簡単な授業構想等をして研修に参加してもらう。また、フレッシュ研修Ⅱ受講者から提出された課題は、研究協議を行う際の参考とする。

【フレッシュ研修Ⅱ受講者との連絡】（マッチング担当）

① 班員は、模擬授業で実施予定の単元（題材）を、班のマッチング担当に報告する。

② マッチング担当は、班員の実施予定単元（題材）を、フレッシュ研修Ⅱ班長に送付する。

連絡期限：模擬授業研修日10日前

③ マッチング担当は、フレッシュ研修Ⅱ班長から送付されたフレッシュ研修Ⅱ受講者の課題を、ミドルリーダー研修の班員と講師に知らせる。

連絡期限：模擬授業研修日7日前

(7) 学習指導案、データ、資料等の提出

模擬授業研修では、ICT（1人1台端末等）を有効活用した授業づくりを意識する。各自、模擬授業研修の10日前までに、指導案、作成したプレゼンテーション等のデータや資料を直接講師に送付し、個別に指導案等について指導を受ける。

受講者は、学習指導案の加筆・修正等を行い、模擬授業研修当日には、修正した学習指導案とワークシート等を参加人数分（講師＋ミドルリーダー研修班員＋フレッシュ研修Ⅱ班員）用意する。

〈指導案送付に関するメールの件名及びファイル名〉

「受講者番号(名札の職種と番号)_指導案_氏名_教科等」

※講師のメールアドレスは、講師が決定した後、ミドルリーダー研修担当から班長に6月初旬ごろ連絡する。

※授業に使うプレゼンテーション等のデータは、USBメモリ等に保存して持参する。会場校担当が用意したパソコンで使用する場合は、事前に必ずウイルスチェックを行っておく。

(8) 事前打合せ

班長は、模擬授業研修当日の運営について講師と打合せを行う。また、事前に班員と当日の運営に関する役割分担や協議内容の共通理解を図り、円滑な運営を心がける。

4 模擬授業研修の実施

(1) 模擬授業研修当日の運営

受付は各研修会場で行う。

講師から簡単な日程の説明を受けた後は、ミドルリーダー研修受講者が運営を行う。研究協議の司会、記録等は交代で行うなど、班員数に応じて柔軟に対応する。

(2) 模擬授業の実施

ミドルリーダー研修受講者は、交代で模擬授業を行う。機器の設置や片付けは全員で行う。

(3) 研究協議の実施

それぞれの模擬授業について研究協議を行い、講師の指導助言を受ける。

研究協議の運営では、フレッシュ研修Ⅱ受講者が協議に積極的に参加できるような工夫をする。

分担して協議記録を行った場合は、記録担当者が協議記録をまとめ、総合教育センターのミドルリーダー研修担当にメールで提出する。

報告期限：9月29日(金)

午前7時の時点で、研修会場を含む地域に、特別警報、暴風警報又は大雪警報が発表中の場合は、その日の研修を中止する。中止になった場合は、講師と受講者で相談の上、別日に模擬授業・研究協議を実施する。対応については、班長が代表して講師及びミドルリーダー研修担当と連絡を取る。

5 模擬授業研修終了後

(1) 研究授業の実施

各受講者は、模擬授業研修の協議における質疑や指導助言を基に、学習指導案を修正し、所属校で研究授業を行う。

[p 4 III-1-(2)-② 参照]

(2) 学習指導案の提出

研究授業終了後1週間をめどに、**学習指導案2部**（そのうち1部は授業者の氏名や児童生徒の個人情報等を削除したもの）をミドルリーダー研修担当にメールで提出する。

最終提出日：12月27日(水)

※個人情報を削除した学習指導案を、総合教育センターカリキュラムサポートセンターでの閲覧用として保管するとともに、徳島県教育委員会Webサイト(徳島県GIGAスクールサポートサイト)に公開し、その一覧をWebサイトから検索できるようにすることを御了承ください。

○学習指導案の送付先

総合教育センター 教職員研修課 ミドルリーダー研修担当

e-mail: middle_1@mt.tokushima-ec.ed.jp

小文字のエル 数字の1

電話：088-672-5100

○学習指導案送付に関するメールの件名及びファイル名(同一にする)

「受講者番号(名札の職種と番号)_最終指導案_氏名_教科等」

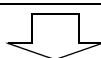
※提出確認に必要であるため、厳守すること。「ミドルリーダー研修指導案の送付」等の件名では、送信者を確認できないため使用しない。ファイル名についても同様。

※メール作成時に、「開封確認メールを要求」と設定する等により、送信先がメールを受信できたことを確認する。

V 研修の流れ

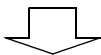
【4・5月】

とくしま教員育成指標に基づく自己評価の実施及び研修計画の立案 〈校内研修の1日間〉	
受講者	○自己評価の実施，研修計画の作成と校長への提出 【栄 様式(A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」 【栄 様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」 ※【研究テーマ】までを記入 【栄 様式(C)】「ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書」
校長	○研修計画の承認等と書類の提出 【栄 様式(C)】「ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書」を承認 【栄 様式(D)】「ミドルリーダー研修事前評価票」及び「ミドルリーダー研修事前評価票・研修計画書送付状」を作成 【提出先】国立・県立学校：県教育委員会 教職員課，市町村立学校：市町村教育委員会 【提出期限】令和5年5月25日(木)
市町村教委	○各校からの【栄 様式(C)，(D)】を確認・承認して提出 【提出先】県教育委員会 教職員課 【提出期限】令和5年6月1日(木)
県教委	○各講座の受講者を決定 【決定期日】令和5年6月7日(水)



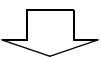
【6月・7月】

校外研修準備	
受講者	○【栄 様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」を作成 ○教科等で設定された日に実施する模擬授業研修に関するマネジメントを行う。



【主に6～1月】

校外研修 〈総合教育センター等で4.5日間の研修〉	
◇共通研修〈1.5日間：4月・12月〉 ◇模擬授業研修〈1日間：7月～8月〉 ◇栄養教諭・学校栄養職員の職務に関する研修（1日間：7月） ◇選択研修〈1日間：6月～12月〉	
校内研修 〈校内で管理職員等の指導・助言を受けて行う研修〉	
○教科等の指導に関する研修〈3日間〉 ・教材研究及び学習指導案作成(2日間)＋研究授業及び研究協議(1日間) ・研究授業実施後，学習指導案をメールで提出 【提出先】総合教育センター 教職員研修課 【提出期限】令和5年12月27日(水)	
○実践報告書の作成〈1日間〉 ミドルリーダーとしての実践を報告書にまとめる。 ※報告は全教職員で共有する。	



【学年末】

研修成果の評価	
受講者	○研修の振り返りと研修報告書の作成と校長への提出 「実践報告書」，【栄 様式(H)】「ミドルリーダー研修・選択研修レポート」（必要な場合） 【栄 様式(A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」 【栄 様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」 【栄 様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」 【栄 様式(F)】「ミドルリーダー研修校内研修実施報告書」
校長	○「実践報告書」，【栄 様式(H)】「ミドルリーダー研修選択研修レポート」（必要な場合）， 【栄 様式(A)，(B)】の承認と提出 【提出先】総合教育センター 教職員研修課 【提出期間】令和6年2月1日(木)～22日(木) ○研修報告書の確認等と書類の提出 【栄 様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」の確認と報告 【栄 様式(F)】「ミドルリーダー研修校内研修実施報告書」の確認と報告 【栄 様式(G)】「ミドルリーダー研修事後評価票」及び「ミドルリーダー研修終了に係る報告書類送付状」 【提出先】国立・県立学校：県教育委員会 教職員課，市町村立学校：市町村教育委員会 【提出期限】令和6年2月22日(木)
市町村教委	○各校からの【栄 様式(E)，(F)，(G)】を確認・承認して提出 【提出先】県教育委員会 教職員課 【提出期限】令和6年3月1日(金)
県教委	受講者の研究成果物等を公開し，教職員の今後の指導や研修に活用

※書類を郵送する際は，封筒に「ミドルリーダー研修〇〇在中」と朱書きすること。

VI とくしま教員育成指標

栄養教諭用				とくしま教員育成指標				令和4年度改訂	
キャリアステージ 資質・能力				採用時に本県が求める力 養成期	＜第1ステージ＞ 基盤形成期	＜第2ステージ＞ 伸長・充実期		＜第3ステージ＞ 熟達期	
素養	ICTの活用	特別な配慮・支援	専門的職務実践力・学習指導	A 使命感・倫理観	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	
					○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職責を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。		
				B 謙学見 び続ける力	○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。		
					○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。		
				C 社会性・ コミュニケーション力	○ 自他を大切にし、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 児童生徒一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。		
					○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○ グループリーダーとして、創意工夫や企画力を発揮し、他のグループとも連携・調整をしながら、組織を活性化させている。	○ 学校教育目標の達成に向け、「チーム学校」としての組織力が発揮できるよう率先して工夫改善に努め、学校全体の教育計画の作成に参画している。
			D 学校組織 マネジメント力	○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○ グループリーダーとして、創意工夫や企画力を発揮し、他のグループとも連携・調整をしながら、組織を活性化させている。	○ 学校教育目標の達成に向け、「チーム学校」としての組織力が発揮できるよう率先して工夫改善に努め、学校全体の教育計画の作成に参画している。	
				○ 校務分掌等の業務内容を理解し、計画的に職務遂行に努めている。	○ 校務分掌等の業務を、周囲の教職員と調整しながら遂行している。	○ 校務分掌等の業務の工夫改善を図るとともに、若手教員に助言をしている。	○ 校務分掌等の業務の効率化を推進している。	○ 組織全体を俯瞰し、業務の効率化を推進している。	
			E 連携・協働力	○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。	○ 地域教育資源(人材・施設・伝統行事等)についての情報を把握し、その活用を図っている。	○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。	
				○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。	○ 互いの課題や学びの共有を図るとともに、若手教員の範となるよう努めている。	○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 人材育成の重要性を踏まえ、OJTを計画的・継続的に進め、支え合い、学び合う環境づくりをしている。		
			F 危機管理力	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応・衛生管理等をはじめ危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応・衛生管理等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに、安全安心に配慮した環境づくりをしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。	○ これまでの経験を生かし、地域と協働した創意工夫のある安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応・衛生管理等に関する取組を発信したり、危機管理体制づくりに参画したりしている。	
				○ 学習指導要領における食育の位置付けと、食育全体計画作成時の栄養教諭の役割を理解している。	○ 学校教育目標を踏まえつつ、児童生徒の実態に応じた食育全体計画を作成し、学級担任等と連携しながら、給食時間の指導及び教科等における食に関する授業に、ICT等を効果的に活用し、参画している。	○ 学校教育目標を踏まえ、児童生徒の実態に合わせた食育全体計画に沿って、食に関する授業に参画するとともに、指導と評価の一体化を図り、ICT等を効果的に用いた食育実践を保護者等に発信することで、家庭や地域との連携を図っている。	○ 食育がより効果的に行われるよう、高い専門性を生かし、助言をしている。		
			担任力・生徒指導	F 教科等における 教育指導	○ ICT等を効果的に活用し、食に関する指導の学習指導案作成や教材研究を行っている。	○ 指導を振り返ったり他の教職員の授業を自分の指導の改善に生かしたりしている。	○ 校内及び市町村研究会等で、授業や実践発表を積極的に行うとともに、社会状況の変化に合わせた最新の知識や指導技術を取り入れ、指導の改善をしている。	○ 食育がより効果的に行われるよう、高い専門性を生かし、助言をしている。	
					○ 児童生徒の食生活の現状を認識し、個に応じた相談指導の重要性を理解している。	○ 個別的な相談指導の流れを理解し、学級担任や養護教諭等と相談しながら、適切な対応をしている。	○ 校内食育推進組織の中で、児童生徒の状況を総合的に評価し、関係職員や学校医等と連携しながら適切な対応をしている。	○ 個別的な相談指導の実践に関し、近隣の栄養教諭や栄養教諭未配置校の教職員等に対し、経験を基に助言をしている。	
				H 学校給食の 管理	○ 学校給食法を理解し、安全安心な学校給食管理を実践しようとしている。	○ 学校給食実施基準に基づき、食品構成や調理作業工程を考慮した献立を作成している。	○ 地域や「徳島ならではの」創意工夫のある献立や社会的課題に対応した献立を作成している。また、喫食状況の把握から適切な栄養管理を行うとともに、教職員への情報提供や助言をしている。	○ 学校給食の運営管理に関し、各校や所属する市町村において指導的役割を果たしている。	
					○ 学校給食に必要な調理技術を身に付けている。	○ 学校給食衛生管理基準に基づき、関係機関と連携しながら適切な指導・助言及び管理を行っている。	○ 市町村内の全学校給食施設において、安全安心な給食業務ができるように、近隣の栄養教諭等と連携しながら、マニュアルを作成したり助言したりしている。	○ 学校給食の運営管理に関し、各校や所属する市町村において指導的役割を果たしている。	
				I 食に関する指導と 学校給食の管理の 一体的な展開	○ 食に関する指導と学校給食の特質を理解し、それらを一体的なものとして実践しようとしている。	○ 各教科等において、学校給食が「生きた教材」となるような献立づくりをしている。	○ 学校給食を「生きた教材」として活用したり、食に関する指導によって得られた知見や情報を給食管理に生かしたりすることで、両者を一体のものとして展開するとともに、若手教員に助言をしている。	○ 食に関する指導と学校給食の管理の相乗効果が得られるように、教職員及び家庭、地域との連携を強化している。	
					○ 食育を推進するための、学校内外の連携の方法や重要性を理解している。	○ 食育コーディネーターとして、市町村学校食育推進委員会の運営に関わっている。	○ 市町村内各校の食育全体計画の作成や円滑な実践のための支援をしている。	○ 食育コーディネーターの指導的立場となり、関係機関と連携を図りながら、市町村学校食育推進委員会の運営に中心となって関わっている。	
			A 児童生徒理解・ 指導	○ 児童生徒理解の意義や、児童生徒の心身の発達過程・特徴について理解している。	○ 児童生徒に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 児童生徒の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるよう意図的・計画的に指導・支援するとともに、若手教員に助言をしている。	○ 児童生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で児童生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。		
				B 集団づくり力	○ 集団づくりの意義や集団づくりの基本的な指導方法を理解している。	○ 学級担任等と連携しながら、集団づくりの経営方針に沿ってよりよい集団に育てるために指導・支援をしている。	○ 異年齢集団等様々な集団活動の指導に積極的に関わり、集団相互の関わりを活性化させ、専門性を生かしながらよりよい集団づくりに取り組んでいる。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。	
					○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 様々な課題に気づき、児童生徒、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携しながら課題解決を図り、その様々な方策について若手教員に助言をしている。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。	
				D 未来ビジョン育成力	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設定し、自立した生活、社会の形成における自己の役割について理解できるよう指導し、自覚を促している。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、学校種をこえた連携や、家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図りながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導が充実するよう、助言をしている。	
			A 個に応じた 指導・支援力	B チームによる実践	○ 特別支援教育の理念や動向、特別支援教育に関連する基礎的な用語や、個に応じた指導・支援の必要性を理解している。	○ 児童生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえ、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 児童生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、合理的配慮の視点から校内での連絡・調整を行うなどして、学校生活全体を通じて個に応じた支援を行っている。	○ 個々の児童生徒に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。	
					○ 関係する校内分掌(特別支援教育コーディネーター等)や、関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んでいる。	○ 校内委員会等で情報共有を行ったり、外部の専門家や関係機関と連携したりして、ケース会議等を実施している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で児童生徒を支援する体制の整備を推進している。	
				C 「わかった」「できた」を育む 学習支援力	○ 学びに困難を抱える児童生徒への配慮を理解し、基本的な指導・支援の方法を理解している。	○ 他の教職員と協働し、児童生徒の学習上のつまづきに対する配慮や支援、教材づくりに積極的に取り組み、意欲的・主体的に学ぶ授業づくりを行っている。	○ アセスメントに基づき指導目標を明確化し、担任・担当間で積極的に授業改善を行うとともに、児童生徒の得意な面を認めることにより、学習意欲の向上につなげる支援をしている。	○ 児童生徒一人一人の実態に応じた目標設定、教材教員の工夫、指導方法、称賛・承認の方法等について、若手教員に助言をしている。	
				D 「わかった」「できた」を育む 生活支援力	○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性による生活上の困難や、問題行動への基本的な支援方法を理解している。	○ 児童生徒が見通しをもって学校生活を過ごせるように、環境の整備やルールの明確化を図るとともに、コミュニケーションスキル向上等に関する指導を行っている。	○ 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒を含む全ての児童生徒の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。	○ 個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全教職員で指導の効果を確認し、児童生徒の成長を共に喜び合う機会を計画的に設定している。	
			A ICTを学習指導に 利活用する力	B ICTを効率的な 業務の遂行に 活用する力	○ 児童生徒の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、食に関する指導の学習指導案を作成している。	○ 児童生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業や給食時間の指導を構想している。	○ 児童生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るため、学習内容に応じて、ICTを適切かつ効果的に活用した創意工夫のある授業や給食時間の指導を実践している。	○ これまでの実践や経験をもとに、食に関する指導における単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。	
					○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した食に関する指導を実践するとともに、蓄積した教育データを学習評価につなげている。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業や給食時間の指導を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補完的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。	
				○ 栄養管理や衛生管理に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、献立作成や発注業務、諸帳簿整備等に必要アプリケーションや学校業務支援システム、その他のクラウドサービス等を利活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムの多くの機能を理解し効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムの多くの機能を理解し効率的に業務を遂行している。		

Ⅶ ミドルリーダー研修で使用する様式の記入例について

栄 1

【栄 様式(A)】

記入例

とくしま教員育成指標に基づく自己評価票

研修名		ミドルリーダー研修	記入日	年 月 日
学校名		職・氏名		
校務分掌				
項 目		具体的内容	該当するキャリア ステージ	
素 養	使命感・倫理観	使命感と情熱をもつとともに、教育公務員としての自覚をもち、家庭や地域の信頼を得るように努めている。	1 ・ 2 <input checked="" type="radio"/> 3	
	識見・学び続ける力	学び続ける意欲をもち、知見を広げ、物事を的確に判断できるように、主体的に研修に取り組んでいる。	1 ・ 2 <input checked="" type="radio"/> 3	
	社会性・コミュニケーション力		1 ・ 2 ・ 3	
	学校組織マネジメント力	【自己評価方法】① により、2行程度に簡潔にまとめる。		
	連携・協働力			
	危機管理能力			
専 門 的 職 務 実 践 力 ・ 学 習 指 導	教科等における教育指導			
	個別的な相談指導			
	学校給食の管理		1 ・ 2 ・ 3	
	食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開		1 ・ 2 ・ 3	
	食育コーディネーターとしての連携・調整		1 ・ 2 ・ 3	
担 任 力 ・ 生 徒 指 導	児童生徒理解・指導力		1 ・ 2 ・ 3	
	集団づくり力		1 ・ 2 ・ 3	
	課題解決力		1 ・ 2 ・ 3	
	未来ビジョン育成力		1 ・ 2 ・ 3	
特 別 な 配 慮 ・ 支 援	個に応じた指導・支援力		1 ・ 2 ・ 3	
	チームによる実践		1 ・ 2 ・ 3	
	「わかった」「できた」を育む学習支援力		1 ・ 2 ・ 3	
	「わかった」「できた」を育む生活支援力		1 ・ 2 ・ 3	
I C T の 利 活 用	I C Tを学習指導に利活用する力		1 ・ 2 ・ 3	
	I C Tを効果的な業務の遂行に活用する力		1 ・ 2 ・ 3	
そ の 他	特徴的な取組	食物アレルギー対応について、学級担任、養護教諭、保護者等と連携を密にし、安全な学校給食の提供と、児童全員が安心して楽しい給食の時間を過ごせるよう意識して取り組んでいる。		

【自己評価方法】

- ① 栄養教諭用とくしま教員育成指標を参考に、各項目ごとに自分の現状を表すように整理して文章で記入する。
- ② 「該当するキャリアステージ」は、現状で一番近いと思われるキャリアステージに○をつける。
ミドルリーダー研修は、第2ステージ(伸長・充実期)に該当する。
- ③ 特徴的な取組：日頃の教育活動で、自分が心がけている取組を具体的に記述する。
- ④ 年度末の振り返りの際、該当するキャリアステージに赤色で○をつける。

記入例

とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定

学 校 名		職・氏名	
【自己分析】		記 入 日	年 月 日
<p>○よさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲とのコミュニケーションを大切にしている。課題解決に向け、校内外と連携を密にしながら、前向きに取り組むことができる。 ・ 何事も工夫して取り組むことが得意である。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長期的な見通しをもって行動することが苦手であり、計画を早めに立てていく必要がある。 			
【自己分析に基づく本年度の目標】	<p>学校の実態、自己分析から見えてきた自分のよさを踏まえて、学校や地域を活性化するための視点を記入する。研究テーマに沿った取組のための手がかりとする。いくつかの視点を箇条書きで記述することも可。</p>		
【学校・地域活性化の視点】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特性を生かした献立づくり及び学校給食を活用した食に関する指導を行いたい。 ・ 食育リーダーとして、学校の食育推進のため全教職員と積極的に関わっていく。 			
【研究テーマ】 「地域の魅力、再発見！学校給食における地場産物活用」			
【本年度の振り返り】	5月はここまで記入する。	記 入 日	年 月 日
<p>本年度の目標の達成状況や、研究等の取組により、学校・地域の活性化にどのように寄与することができたか等、本年度の取組の成果と課題について記入する。</p>			
【次のキャリアステージに向けて】			
<p>本年度の研修の成果を今後の教育活動にどのように生かしていくか、本年度の取組で見えてきた課題に今後どのように取り組んでいくか等、長期的な視点で記入する。</p> <p>具体的な方策を記入する。</p>			
<p>○取組を実現するための行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内において、積極的に教諭の授業実践を参観する。 ・ 市食育推進委員会の中心となって、運営及び若手教職員への助言を行う。 <p style="text-align: right;">※年度末の振り返りで最後まで記入して提出する。</p>			

【自己分析と目標設定の生かし方】

- ①自己評価から見えてきた自分のよさや課題を踏まえて、本年度の目標を設定する。
- ②学校の実態や自己評価をもとに、学校・地域活性化の視点で考えられる取組をあげる。
- ③年度末に、【栄 様式(A)】の「該当するキャリアステージ」を見直した上で目標に照らし合わせた振り返りと、次のキャリアステージに向けた取組を計画する。

※【栄 様式(A)】、【栄 様式(B)】は振り返りのために、コピーを個人でも保管すること。

記入例

ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書

学 校 名		校長氏名	
受講者職・氏名		校務分掌等	

校外研修計画

研修の種類	月	日	日 数	講座名等	場 所
共通研修	4	6	1 日	共通研修（1）	総教センター
	12	28	0.5 日	共通研修（2）	総教センター
模擬授業研修	○	△	1 日	食に関する指導（家庭科）	○○小
職務に関する研修	7	24	1 日	栄養教諭・学校栄養職員の職務に関する研修 食に関する指導研修/学校給食管理研修	総教センター
選択研修	○	△	1 日	アサーション・トレーニング	総教センター
合 計			4.5 日		

校内研修計画

	実施予定	日数等	研修内容	指導者
立 案	4 月	2 時間	自己評価の実施及び研修計画の立案	校長
	4 月	1 時間	【研究テーマ】の決定，具体的取組の構想	教頭・教務
教科等の指導に関する研修	6 月	1 日	○○科「単元(題材)名」教材研究，学習指導案作成	教頭
	7 月	1 日	指導案の修正，授業準備	指導教諭
	1 1 月	1 日	○○科「単元(題材)名」研究授業，研究協議	校長
実践報告書の作成	1 月	3 時間	報告文書作成	校長
合計		5 日	※累計 3 時間で 1 日とする。	

記入例

ミドルリーダー研修事前評価票			
学 校 名		校長氏名	
受 講 者 職・氏名			
評価項目	5 つの柱	資 質 ・ 能 力	
	素 養	社会性・コミュニケーション力 栄養教諭の立場から、本校の人権教育推進に積極的に関わってほしい。	
	専門的職務実践力・学習指導	教科等における教育指導 学校教育目標を踏まえ、食に関する授業に参画するとともに、家 庭や地域との連携を図ってほしい。	
	担任力・生徒指導	課題解決力 課題解決のため、教職員の連携をより一層深めてほしい。	
	特別な配慮・支援	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 「とくしま教員育成指標」の5つ柱それぞれの資質・能力について、本年度重点を置いてほしい内容を1つ、具体的に記入する。 </div>	
	I C T の利活用		
校長所見	※受講者の研究テーマ等を踏まえ、学校組織の中で期待する役割について具体的に記述する。		

ミドルリーダー研修事前評価票・研修計画書送付状

<p>_____教育委員会教育長 殿</p> <p>令和5年度「ミドルリーダー研修の事前評価票」及び【栄 様式 (C)】「ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書」を送付します。</p> <p>_____年____月____日</p> <p style="text-align: right;">_____校長_____</p>
<p>徳島県教育委員会教育長 殿</p> <p>令和5年度「ミドルリーダー研修の事前評価票」及び【栄 様式 (C)】「ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書」を承認しましたので、送付します。</p> <p>_____年____月____日</p> <p style="text-align: right;">_____教育委員会教育長_____</p>

記入例

ミドルリーダー研修校外研修実施報告書

学 校 名		校 長 名	
受講者職・氏名			

研修の種類	月	日	日 数	講座名等	場 所	チェック
共通研修	4	6	1 日	共通研修（１）	総教センター	
	12	28	0.5 日	共通研修（２）	総教センター	
模擬授業研修	○	△	1 日	食に関する指導（家庭科）	〇〇小	
職務に関する研修	7	24	1 日	栄養教諭・学校栄養職員の職務に関する研修 食に関する指導/学校給食管理研修	総教センター	
選択研修	○	△	1 日	アサーション・トレーニング	総教センター	
	○	△	0.5 日	徳島県小学校人権教育研究大会（文科人研）	〇〇小	✓
			0.5 日	※人権教育に関するレポート提出		✓
合 計			4.5 日			

欠席等の理由で、別の研修を受講した場合は、欠席した研修を二重線で消し、受講した講座名を記入する。

個別申請を要する講座等は、受講後に所属校で校長に確認してもらう。

最終的に受講した日数を記入する。

【留意事項】

選択研修は、受講した研修講座名を黒のボールペンで記入する。
欠席により受講しなかった講座は二重線で消し、新しく受講した講座名を記入する。その際は事前にミドルリーダー研修担当者に連絡をすること。
受付時に研修講座担当者に提出し、終了時に受け取ること。その際、研修講座担当者のチェックがあることを確認する。
ただし、総合教育センター以外で実施される個別申請を要する講座等、担当不在の場合は、研修後、校長に報告をして確認を受けること。

【レポート提出先】総合教育センター教職員研修課 ミドルリーダー研修担当

ミドルリーダー研修担当：総合教育センター 教職員研修課 電話番号 088-672-5100

記入例

ミドルリーダー研修校内研修実施報告書

学 校 名			受講者職・氏名		
	月	日	日数等	研修内容	指導者
立 案	4	14	2 時間	自己評価の実施及び研修計画の立案	校長
	4	18	1 時間	【研究テーマ】の決定	教頭
教科等の指導に関する研修	6	2	2 時間	〇〇科「単元(題材)名」教材研究，学習指導案作成	教頭
	6	9	1 時間	〇〇科「単元(題材)名」教材研究，学習指導案作成	教頭
	6	16	1 時間	指導案の修正，授業準備	指導教諭
	7	14	2 時間	指導案の修正，プレゼン作成	指導教諭
	11	2	1 時間	授業準備，指導案修正	教頭
	11	7	2 時間	〇〇科「単元(題材)名」研究授業，研究協議	校長
実践報告書の作成	1	5	1 時間	報告書作成	教頭
	1	12	2 時間	報告書作成	校長
合 計			5 日	※累計 3 時間で 1 日とする。	

上記の通り，ミドルリーダー研修校内研修を実施したことを報告します。

令和 年 月 日

校長

記入例

ミドルリーダー研修事後評価票			
学 校 名		校長氏名	
受 講 者 職・氏名	<div>事前評価票に記載したものを転記する。</div>		
評価項目	5つの柱	資 質・能 力	達成状況
	素 養	社会性・コミュニケーション力 栄養教諭の立場から、本校の人権教育推進に積極的に関わってほしい。	3
	専門的職務実践力・学習指導	教科等における教育指導 学校教育目標を踏まえ、食に関する授業に参画するとともに、家庭や地域との連携を図ってほしい。	2
	担任力・生徒指導	課題解決力 課題解決のため、教職員の連携をより一層深めてほしい。	4
	特別な配慮・支援		<div>達成状況を4段階で評価する。</div> <div>4 十分達成できた 3 概ね達成できた 2 やや課題が残る 1 努力を要する</div>
I C T の活用			
校長所見	※研修の取組状況や、研究の成果が次年度の学校運営に生かせるものであったか、受講者の資質・能力がどのように向上したか等、今後の期待等も含めて簡潔に記述する。		

ミドルリーダー研修終了に係る報告書類送付状

<p>_____教育委員会教育長 殿</p> <p>令和5年度ミドルリーダー研修の終了にあたり、「ミドルリーダー研修事後評価票」、【栄 様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」及び【栄 様式(F)】「ミドルリーダー研修校内研修実施報告書」を送付します。</p> <p>_____年____月____日</p> <p>_____校長_____</p>
<p>徳島県教育委員会教育長 殿</p> <p>令和5年度ミドルリーダー研修の終了にあたり、「ミドルリーダー研修事後評価票」、【栄 様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」及び【栄 様式(F)】「ミドルリーダー研修校内研修実施報告書」を承認して、送付します。</p> <p>_____年____月____日</p> <p>_____教育委員会教育長_____</p>

【栄 様式（H）】

ミドルリーダー研修選択研修レポート

所 属		受講者氏名		受講者番号	
研修名					
1 研修の概要					
40字×15行					
2 校内での生かし方 (自校の状況に当てはめて実施可能なことや、すぐに実施が困難であれば、その対応などを記述する。)					
40字×15行					

※レポート1つにつき、0.5日分の受講とする。作成したレポートを管理職員に提出し、確認を受けること。

【栄 様式（Ⅰ）】

ミドルリーダー研修模擬授業研修について（通知）

月・日	令和 年 月 日（ ）																								
送り先	栄養教諭 （ ）学校 班長（ ）様																								
内 容	<p> 模擬授業研修が次のとおり決定しました。教科等，実施日，実施場所，講師等を確認してください。 研修の流れについては，「ミドルリーダー研修の手引Ⅳ模擬授業研修」を再度確認してください。また，班長は，当日の日程の詳細についてWebサイトの実施要項を参考に，事前に講師と相談して決定し，班員に伝えてください。 </p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">教科等</td><td colspan="2"></td></tr> <tr> <td>実施日</td><td colspan="2"></td></tr> <tr> <td>実施場所</td><td colspan="2"></td></tr> <tr> <td rowspan="3">講 師</td><td>所 属</td><td></td></tr> <tr> <td>職</td><td></td></tr> <tr> <td>氏 名</td><td></td></tr> <tr> <td colspan="3">模擬授業学習指導案送付先・講師メールアドレス</td></tr> <tr> <td colspan="3"></td></tr> </table>			教科等			実施日			実施場所			講 師	所 属		職		氏 名		模擬授業学習指導案送付先・講師メールアドレス					
教科等																									
実施日																									
実施場所																									
講 師	所 属																								
	職																								
	氏 名																								
模擬授業学習指導案送付先・講師メールアドレス																									
送信者	徳島県立総合教育センター 教職員研修課 ミドルリーダー研修担当 E-mail : middle_1@mt.tokushima-ec.ed.jp																								
備 考																									

※班長は，本通知データを班員に速やかに転送してください。

【栄 様式（J）】

年 月 日

徳島県立総合教育センター所長 殿

学 校 名

校 長 氏 名

欠 席 届

次のとおり、本校職員が令和5年度ミドルリーダー研修を欠席しますのでお届けします。

1 職 ・ 氏 名

2 研修講座名

3 欠席する期間 年 月 日 曜日から
 年 月 日 曜日まで () 日間

4 欠席の理由

①やむを得ず欠席（遅刻・早退）する場合は、あらかじめ管理職員（緊急の場合は本人）が、ミドルリーダー研修担当(088-672-5100)に連絡してください。教職員研修課長により欠席が承諾された場合、管理職員は、速やかに欠席届をメールに添付して送付してください。なお、送付は、学校代表メールアドレスもしくは管理職員のメールアドレスから行うようにしてください。

②メールの件名は、【欠席届】ミドルリーダー研修としてください。

【送付先】総合教育センター教職員研修課

メールアドレス: kyoushokuinkenshuu@g.tokushima-ec.ed.jp

【栄 様式（K）】

ミドルリーダー研修受講延期願	
学 校 名	
受 講 者 名 職・氏 名	
次年度以降の 受講を希望す る理由	<p>以上の理由により，令和５年度受講から次年度以降の受講への変更を希望します。</p>
<p>_____教育委員会教育長 殿</p> <p>上記の理由により，令和５年度の受講が困難と判断されますので，次年度以降に受講させてくださるようお願いします。</p> <p>_____年____月____日</p> <p>_____校長_____</p>	
<p>徳島県教育委員会教育長 殿</p> <p>_____長からの願のとおり，次年度以降に受講することが適当であると判断します。</p> <p>_____年____月____日</p> <p>_____教育委員会教育長_____</p>	
摘 要 欄	年度受講とする。

- ① 市町村立小学校長・中学校長・高等学校長は，市町村教育委員会へ提出する。
- ② 市町村教育委員会は，次年度以降の受講が適当と判断した場合は，承認の上，徳島県教育委員会教職員課へ提出する。
- ③ 国立・県立学校長は，徳島県教育委員会教職員課へ提出する。
- ④ 摘要欄は，徳島県教育委員会で記入する。

保存すべき文書等

各学校においては、研修の実績に基づいて文書等の整備及び保管に留意すること。

(1) 保存すべき文書等

- ①【栄 様式 (A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」の写し
- ②【栄 様式 (B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」の写し
- ③【栄 様式 (C)】「ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書」の写し
- ④【栄 様式 (D)】「ミドルリーダー研修事前評価票」及び「ミドルリーダー研修事前評価票・研修計画書送付状」の写し
- ⑤【栄 様式 (E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」の写し
- ⑥【栄 様式 (F)】「ミドルリーダー研修校内研修実施報告書」の写し
- ⑦【栄 様式 (G)】「ミドルリーダー研修事後評価票」及び「ミドルリーダー研修終了に係る報告書類送付状」の写し
- ⑧「研究授業の学習指導案」
- ⑨「実践報告書」

(2) 保存期間

5 年間

※書類を郵送する際は、封筒に「ミドルリーダー研修〇〇在中」と朱書きすること。

令和 5 年度
ミドルリーダー研修の手引
(栄養教諭・学校栄養職員)

令和 5 年 3 月印刷
令和 5 年 4 月発行

編集発行 徳島県教育委員会

徳島県教育委員会 連絡先

〒770-8570 徳島市万代町 1 丁目 1 番地
教職員課人材育成担当 電 話 088-621-3123
ファクシミリ 088-621-2881

徳島県立総合教育センター 連絡先

〒779-0108 板野郡板野町犬伏字東谷 1 - 7
教 職 員 研 修 課 電 話 088-672-5100
ファクシミリ 088-672-6411